

ベトナムコミュニティ主導の 結核の啓発・早期発見の取組み

結核研究所

臨床・疫学部主任

りさんいん
李祥任



日本では、2022年に新登録された外国出生結核患者のうち、出生国の約8割をフィリピンやベトナムを含むアジア6カ国で占めています*1。特に近年、在留外国人数が増加傾向にあるベトナム人は、技能実習生や留学生などの20代の若年成人が多いため、行動特性を考慮した結核対策のアプローチが必要です。筆者は、2021年にベトナムコミュニティと共にTB Action Network（後に改名*2。以下、本ネットワーク）を立ち上げ、在住ベトナム人・移民を対象にした結核の早期発見のために、結核の啓発や医療アクセスを促進させるための研究活動に取り組んでいます。

本ネットワークでは、多くの在住ベトナム人が日頃活用するFacebookなどのSocial Networking Service（SNS）を通じて、デジタル技術を活用してベトナム人へアプローチしています。しかし、主要都市で開催されるベトナムフェスティバルは、日本で最も多くのベトナム人が一度に集まる大規模イベントと考えられているため、多様なベトナム出身の方達と直接対話し、反応を観察できる貴重な機会です。

本ネットワークは、2023年6月に東京、大阪で開催されたベトナムフェスティバル2023で、在住ベトナム人を対象にした結核と健康情報の普及や、結核の基本的知識や健康行動に関する調査（230名が参加）、無料健康相談会（140名以上が参加）を実施しました。この取組みの特筆すべき点は、企画・運営の中心が、

ベトナム出身者が大多数を占める本ネットワークのボランティアメンバー達で、総勢40名以上が参加したことです。さらに、保健医療分野のボランティア、駐日ベトナム大使館及び在大阪ベトナム総領事館、東京と大阪の保健行政機関、結核予防会事業部をはじめとする多くの関係機関から、運営面や資材の提供に渡る様々なご支援やご協力をいただきました。

会場で、結核に関するベトナム語のリーフレットなどをベトナム出身の来会者向けに、同世代のベトナム出身メンバーがベトナム語で話しかけて配布したので、多くの方達が耳を傾けてくれました。

ベトナムコミュニティと連携することで、私は多くの学びを得ています。大半の一般の方は、自分の呼吸器症状から結核を自ら疑うことは、ほぼないでしょう。そんな中、無料健康相談会を通じて、多くのベトナム人達が、日頃抱えている健康課題をベトナム語で相談したい、というニーズがあることがわかりました。対象者が日頃抱える健康ニーズに耳を傾け、必要な医療アクセスを母国語で助言・支援する体制をつくり、在住ベトナム人自らが中心となって自分達の健康を支える取組みが、結核疑いの人の早期発見や受診に役立つと考えています。🐼

注釈:

*1. 引用: 結核予防会（編）: 結核の統計2023. 公益財団法人結核予防会, 2023.

*2. 2023年12月にグループ名を、Migrant Health Action Network (MiHAN)へ改名。



激励くださった在大阪ベトナム総領事館ゴ チン ハ総領事とTB Action Networkのボランティア達（大阪の会場で）



ベトナム語の結核リーフレットで説明するボランティア。ポケットティッシュに名刺サイズの結核の啓発カードを入れたものやコンパクトなパンフレットが、来場者は受け取りやすい様子だった